

四国森林管理局「緑の回廊の設定方針」に設定する「評価項目」（案）

2022.1.31作成—委員へ再確認

2022.2.17作成 委員意見反映

資料6

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線 下伐採)	風車	地熱	管理用 道路	
1 猛禽類・哺乳類等の保護に関すること								—	—	—	—	—	
猛禽類(留鳥型)の保護								—	—	—	—	—	
		クマタカ	<ul style="list-style-type: none"> クマタカは、山地の高木林に生息し、その巣は急斜面の樹上に作られることが多い。産卵期は3月頃、ノウサギ等の小中型哺乳類やキジ等の鳥類、ヘビ等の爬虫類などの動物を捕食。 事業の影響を回避・低減するためには、「営巣中心域」や重要な「採食地」を含む「高利用域」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。 	① 行動圏 ② 自然環境 ③ 営巣場所 ④ 繁殖状況 ⑤ 社会環境の 情報	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	クマタカ	<ul style="list-style-type: none"> 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 「止まり場所」と「森への出入りの位置」からの季節別利用場所(位置、環境)の解析を行うことにより、行動圏を確実に特定すること。 	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
		オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> オオタカは、平地から丘陵地の森林を繁殖地としていることが多い。産卵期は4~6月頃、ハト等の中型鳥類やネズミ等の中型哺乳類の動物を捕食。 事業の影響を回避・低減するためには、「営巣中心域」、「高利用域」、「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。 	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
		ノスリ	<ul style="list-style-type: none"> ノスリは、山地の森林に生息し、樹上や断崖の上に枝を組み合わせた巣を作る。産卵期は5月、小型哺乳類等の動物を捕食。 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。 	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	ノスリ	<ul style="list-style-type: none"> 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
		ミサゴ	<ul style="list-style-type: none"> ミサゴは、湖沼、河川に生息し、水辺の岩や樹上に木の枝を組み合わせた巣を作る。産卵は5~7月、魚類を捕食。 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。 	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	ミサゴ	<ul style="list-style-type: none"> 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
		ハヤブサ	<ul style="list-style-type: none"> ハヤブサは、草原、湿地、沼地に生息し、川沿いの崖の岩棚に巣を作る。3~4月に断崖の窪地に卵を産む。小鳥を捕食。 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。 	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	ハヤブサ	<ul style="list-style-type: none"> 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線下伐採)	風車	地熱	管理用 道路	
		その他	・ 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	【タカ目タカ科、ハヤブサ目ハヤブサ科】少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期 【それ以外】2営巣期を含む2年間	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
猛禽類以外(留鳥型)の保護								-	-	-	-	-	
		ホシガラス	・ ホシガラスは、亜高山帯針葉樹林に生息し、針葉樹上に巣を作る。産卵は3月頃、ハイマツの実、昆虫、鳥の卵等を捕食。 ・ 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	2営巣期を含む2年間	・ ホシガラス	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
		キバシリ	・ キバシリは、亜高山帯針葉樹林に生息し、幹の裂け目や樹洞に巣を作る。産卵は3~6月、樹皮の間や割れ目にいる昆虫やクモを捕食。 ・ 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	2営巣期を含む2年間	・ キバシリ	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
		その他	・ 事業の影響を回避・低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。	① 営巣場所 ② 繁殖状況 ③ 行動圏の内部構造 ④ 自然環境 ⑤ 社会環境の 情報	2営巣期を含む2年間	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。	○	○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避
猛禽類(渡りをするもの)の保護								-	-	-	-	-	
		猛禽類（渡りをするもの）	・ 施設設置によるルートの阻害や迂回することによるエネルギー・ロスの問題および死亡率の増加が考えられるため、適切な保全措置を検討する必要がある。	①種ごとの渡りルートの情報 ②種ごとの渡りの中継地における、餌場と休息地等の情報	【タカ目タカ科、ハヤブサ目ハヤブサ科】少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期 【それ以外】2営巣期を含む2年間	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ハチクマ、サシバ、ハイタカ等 ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。		○	○	○	○	1-①営巣場所、主要な採食地等の喪失・減少の回避 1-③バードストライク回避

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線下伐採)	風車	地熱	管理用 道路	
その他希少な渡り鳥の保護								-	-	-	-	-	
	水鳥類	・ 繁殖、越冬、中継のために日本へ渡来することから、その餌場、休息地、その渡りルート等について、適切な保全措置を検討する必要がある。	①餌場と休息地の移動機能を維持するため、衝突リスクを解析、予測・評価し、必要に応じて影響を回避・低減する保全措置が取られていることが確認できる情報	渡来する冬季を最低2シーズン（対象種による）	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ヤマシギ等 ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 ・ 渡りルート上の集団ねぐらや峠越え場所、半島部など、山の尾根部を低高度で集中的に通過する場所の有無を確実に特定し、事業実施区域から避けること。	○	○	○	○		1-②ねぐら等の保護 1-③バードストライク回避	
	その他	・ 繁殖、越冬、中継のために日本へ渡来することから、その餌場、休息地、その渡りルート等について適切な保全措置を検討する必要がある。	①渡りルート上で計画される場合、衝突リスクを予測・評価し、その結果に応じてリスクを回避・低減させる保全措置が実施されていることが確認できる情報	渡りの中心となる春季・秋季の年2回を最低2シーズン（地域による）	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ヤイロチョウ、ミゾゴイ、コルリ、コマドリ、コノハズク等（詳細：表1） ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、風車の設置予定地と営巣地、主要な採食地等との間に十分な距離をとること。 ・ 渡りルート上の集団ねぐらや峠越え場所、半島部など、山の尾根部を低高度で集中的に通過する場所の有無を確実に特定し、事業実施区域から避けること。 ・ 希少猛禽類の定点観察を実施する際に、小鳥類の観察も並行して確実に実施すること。	○	○	○	○		1-②ねぐら等の保護 1-③バードストライク回避	
希少な哺乳類の保護								-	-	-	-	-	
	ツキノワグマ	・ ツキノワグマは、その食性や利用環境の幅は広く、1年を通じて多様な環境と広い生息地を必要とするため、アンブレラ種として位置づけられている。 ・ 四国地域に生息するツキノワグマは、国指定剣山山系鳥獣保護区や四国山地緑の回廊（剣山地区）周辺の森林に生息。冬に冬眠穴でか子グマを出産。植物の堅果（ドングリ）等を捕食採餌。 ・ 「絶滅のおそれのある地域個体群」（環境省レッドリスト）とされており、適切な保全措置を検討する必要がある。	①生息の状況 ②生息環境の状況に関する情報	春季、夏季、秋季及び冬季の年4回を最低3シーズン	・ ツキノワグマ	・ ツキノワグマの場合、本種は四国では草地や林道、河川敷などの開放的な環境での目撃記録はほとんどないことから、このような環境を忌避している可能性がある。そのため、風車や道路等の設置により森林が消失することは生息地あるいは移動ルートの分断につながるもので、本種の生息情報がある地域では森林の消失を確実に避けること。	○	○	○	○		2-①草地等の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断防止	
	哺乳類（コウモリ以外）	・ 地域により「絶滅のおそれのある地域個体群」とされている種もあり、適切な保全措置を検討する必要がある。	①重要な種の分布 ②生息の状況 ③生息環境の状況に関する情報	春季、夏季、秋季及び冬季の年4回を最低3シーズン	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ヒメヒミズ、トガリネズミ、ニホンカモシカ、アズマモグラ等 ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ ニホンカモシカの場合、森林が消失することで生息環境の悪化が見込まれる。本種は同性間でなわばりを主張するので、森林の面積が減少すれば、生息個体数の減少が生じる可能性があるために、本種の生息情報がある地域では森林の消失を確実に避けること。 ・ 小型哺乳類の場合、行動域が狭いことを考慮し、風車や道路等の設置により生息地が消失又は分断されることを確実に避けること。	○	○	○	○		2-①草地等の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断防止	

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線下伐採)	風車	地熱	管理用 道路	
		コウモリ	<ul style="list-style-type: none"> 洞窟や樹洞、枯死木や生立木の樹皮下や幹の割れ目、建造物等をねぐらとして利用する。 飛翔場所（林冠上空、林冠付近、林内等）が種により異なり、施設設置による飛翔ルートの障害や迂回することによるエネルギー・ロスの問題及び死亡率の増加、ねぐらの消失と放棄が考えられるため、適切な保全措置を検討する必要がある。 	①ねぐらと採餌場調査 ②事業予定地から10kmの範囲内のコウモリの種、ねぐらの記録情報の収集。 ③開発によって影響を受ける可能性のある周辺地域におけるねぐら（特に出産哺育コロニーと越冬コロニー）とスワミング場所（交尾や情報交換を目的とした集合場所）の位置。およびのそれらのコウモリが利用している採餌場所と移動経路の位置と範囲。 ④事業予定地での活動量調査 ⑤事業予定地におけるコウモリの利用種（または種グループ）とその活動量および時空間的分布。気象データと活動量の関係。	コウモリ類の活動期である春季～秋季を含む期間で継続的に調査。事業予定地が広大な場合はコウモリの活動パターンに高い変動がある可能性があるため、複数年調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ノレンコウモリ、ヒナコウモリ、モリアブラコウモリ、チチブコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ウサギコウモリ、コテングコウモリ等 その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 	<ul style="list-style-type: none"> ねぐら（出産育雛場所）、採餌場所、移動経路（季節移動含む）等の視点から十分な調査を実施し、位置を特定するとともに、事業実施区域から避けること。 衝突死のリスクを限りなくゼロにするため、予定地の中でコウモリ類の活動が高い場所や衝突リスクがある場所を避けるよう十分な距離をとること。 						1-②ねぐら等の保護 1-④バットストライク回避
2 マイクロハビタットの保全に関すること								-	-	-	-	-	
希少な爬虫類・両生類の保護								-	-	-	-	-	
		サンショウウオ類	<ul style="list-style-type: none"> 幼体の生息環境は、溪流河川の源流域、池沼や水たまり等、成体（繁殖期以外）は林床に生息している。 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。 	①確認されたサンショウウオ類に関して繁殖地となる池沼や水たまり、溪流河川等に関する情報。 ②生息地となる林床に関する情報	繁殖期を含む春季、夏季、秋季、冬季の2シーズン	<ul style="list-style-type: none"> その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】イシヅチサンショウウオ、ツルギサンショウウオ（和名変更のため）、イヨシマサンショウウオ（和名変更のため）、シコクハコネサンショウウオ等 その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 	<ul style="list-style-type: none"> 池沼、溪流河川、水たまり等の水辺の繁殖地の消失を確実に避けること。 沢等の水の流れの分断を確実に避けること。 暗渠で水を流す場合には、上下流口から小動物が移動できるよう配慮すること。 標高等により産卵時期が異なる場合や、産卵期が短い場合があることに十分留意し、調査適期を確実に把握すること。 山地性の小型サンショウウオについては、生息沢の周辺(おおよそ1km)とそれより上流部のエリアについては、事業実施区域から除くこと。 						2-②水辺環境の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断の防止
		その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。 	①確認されたその他の種に関して一般的な繁殖地となる池沼や水たまり、溪流河川等に関する情報	繁殖期を含む春季、夏季、秋季、冬季の2シーズン	<ul style="list-style-type: none"> その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 	<ul style="list-style-type: none"> 池沼、溪流河川、水たまり等の水辺の繁殖地の消失を確実に避けること。 沢等の水の流れの分断を確実に避けること。 暗渠で水を流す場合には、上下流口から小動物が移動できるよう配慮すること。 						2-①草地等の喪失・悪化防止 2-②水辺環境の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断の防止

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線下伐採)	風車	地熱	管理用 道路	
希少な水生生物の保護								-	-	-	-	-	
		水生生物（魚類、水生昆虫類、底生生物）及び陸産貝類等）	・ 事業地周辺の池沼、溪流河川、水たまり及び湿地等に生息している可能性があり、適切な保全措置を検討する必要がある。	①地熱発電施設から排出されるガス、冷却水が付近の生物相に大きな影響を与えるおそれがあることから、周囲の水環境に与える影響に関する情報 ②重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況に関する情報 ③護岸工事など水辺環境の改変が水生生物に与える影響に関する情報	春季、夏季、秋季及び冬季の年4回を最低2シーズン	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ナガレホトケドジョウ、マルクチゴマガイ、ミヤマオオペンマイマイ等 ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ 池沼、溪流河川、水たまり及び湿地等の水辺の繁殖地の消失を確実に避けること。 ・ 沢等の水の流れの分断を確実に避けること。 ・ 暗渠で水を流す場合には、上下流口から小動物が移動できるよう配慮すること。						2-②水辺環境の喪失・悪化防止 4-②移動経路の分断の防止
希少な昆虫類等の保護								-	-	-	-	-	
		チョウ類	・ 成虫は、年1~3回発生し、幼虫期には種ごとに特定の植物を食草とすることが多い。 ・ 生息地は、森林、採草地、農地、河川堤防、山地草原等と種により様々である。 ・ 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。	①希少チョウ類の生息の状況 ②④希少チョウ類の生息・繁殖環境となっている草地や森林（地域ごとにその群落構成種は異なる）の情報	早春季、春季、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】ギンイチモンジセリ、ミヤマチャバネセリ、スジボソヤマキチョウ、ウラゴマダラシジミ、キリシマミドリシジミ、ミヤマカラスシジミ、クロツバメシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、シータテハ、クロヒカゲモドキ、イボタガ等 ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ メタ個体群（ネットワーク化された生息地によってつながった集団）を形成する複数の生息地を特定し、事業実施区域から確実に除くこと。						2-①草地等の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断防止
		コウチュウ甲虫類	・ 変態は卵→幼虫→蛹→成虫という完全変態を行う。幼虫は、成虫とは食物が違うものも多い。 ・ 種により食性は多様で、肉食、腐肉食、糞食、樹液食、菌食などを行うものがある。 ・ 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。	確認された希少コウチュウ甲虫類に関して、 ①生息の状況 ②④幼虫の生息環境の情報 ③⑤エサ資源に関する情報 ④⑥成虫の生息環境の情報	早春季、春季、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	・ その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 【例】オオチャイロハナムグリ等（詳細：表2） ・ その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）	・ メタ個体群（ネットワーク化された生息地によってつながった集団）を形成する複数の生息地を特定し、事業実施区域から確実に除くこと。						2-①草地等の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断防止

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線下伐採)	風車	地熱	管理用 道路	
		その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。 	確認されたその他の種に関して、 ①生息の状況 ②Ⓜ生息環境の情報 ③Ⓜエサ資源に関する情報 ④Ⓜ成虫の生息環境の情報	早春季、春季、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	<ul style="list-style-type: none"> その地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類） 	<ul style="list-style-type: none"> メタ個体群（ネットワーク化された生息地によってつながった集団）を形成する複数の生息地を特定し、事業実施区域から確実に除くこと。 						2-①草地等の喪失・悪化防止 2-③移動個体の轢死の回避 4-②移動経路の分断防止
3 希少ないしは重要な植物群落の保護に関すること													
		植物種の保護	<ul style="list-style-type: none"> 希少ないしは重要な植物種（重要な植物種とは、地元住民等から信仰等の対象となっている巨樹、巨木、老木、古木等の植物個体をいう。以下同じ。） 希少種の生息（生育）環境を構成している植物種 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。 	①維管束植物その他主な植物に関する植物相の状況に関する情報 ②希少ないしは重要な植物種の分布、生育の状況及び生育環境の状況に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも生育状況及び生育環境が把握できる1年間。 種の同定には開花・結実期が適するため、文献等で生育が推定された対象種によっては、開花期が短いなど季節性が強い場合があることも留意し、調査時期を設定することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> その地域において希少（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）ないしは重要な植物種【希少な植物種の例】詳細：表3、【重要な植物種の例】さおりが原の巨人たち（イヌザクラ、トチノキ）等 その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）ないしは重要な植物種 	<ul style="list-style-type: none"> 作業道や資材ヤードの仮設に伴う植物種の喪失を確実に防ぐこと。 緑化資材の導入による外来種（国内帰化を含む）の侵入を確実に防ぐこと。 地熱発電所の稼働後の排気ガスや排水が周囲の環境にどのような影響を及ぼすかについて、事後調査による長期的なモニタリングを確実に実施すること。 					2-①草地等の喪失・悪化防止 2-②水辺環境の喪失・悪化防止 3-①植物群落の喪失・悪化防止 3-②溪畔林の喪失・悪化防止 3-④排ガス・排水の悪影響防止	
		植物群落の保護 ※特定の植物群落をマイクロハビタットとして利用する希少な動物種の保護については、「2 マイクロハビタットの保全に関すること」の評価項目により確認	<ul style="list-style-type: none"> 希少ないしは重要な植物群落 希少種の生息（生育）環境を構成している植物群落 地域を特徴づける希少野生生物種である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。 	①維管束植物その他主な植物に関する植生の状況に関する情報 ②重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況に関する情報 ③自然環境保全基礎調査の植生図で、植生自然度8以上とされる森林植生の情報 ④自然環境保全基礎調査における特定植物群落に関する情報 ⑤旧保護林に関する地域の情報 ⑥植生と希少動物種の関係性に関する情報（樹洞を利用する野鳥や昆虫等の種に関する情報など） ⑦植生と希少植物種の関係性に関する情報（自然度の高い森林植生に依存する着生植物の情報など）	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも生育状況及び生育環境が把握できる1年間。 	<ul style="list-style-type: none"> その地域において希少（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）ないしは重要な群落 その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類）ないしは重要な群落 	<ul style="list-style-type: none"> 作業道や資材ヤードの仮設に伴う植生の喪失や悪化を確実に防ぐこと。 緑化資材の導入による外来種（国内帰化を含む）の侵入を確実に防ぐこと。緑化資材の導入や他地域からの重機等の持ち込み等による外来種（国内帰化を含む）の侵入を確実に防ぐこと。緑化資材については日本産と同名がつけられたものであっても海外産のものは使用しないこと。 地熱発電所の稼働後の排気ガスや排水施設、排水が周囲の環境に与える影響を把握するため、事後調査による長期的なモニタリングを確実に実施し、生じた影響に対して適切な対処方法を立案すること。 事業地周辺の森林を構成する主な樹種の期待平均樹高と、最下垂時の送電線の高さとの間に、十分な離隔距離をとること。 事業地周辺の森林を構成する主な樹種の期待平均樹高と、風車のブレードの最下点との間に、十分な離隔距離をとること。 					2-①草地等の喪失・悪化防止 2-②水辺環境の喪失・悪化防止 3-①植物群落の喪失・悪化防止 3-②溪畔林の喪失・悪化防止 3-④排ガス・排水の悪影響防止 3-⑤送電線との十分な離隔距離の確保 3-⑥風車のブレードとの十分な離隔距離の確保	
		特別な個体の保護	<ul style="list-style-type: none"> 尾根部等の風衝地には、その場所の植生全体を強い風の影響から守っている特別な植物の個体が存在する。 それを伐開してしまうと、そこから連鎖的に枯れ上がりや倒木が進み、森林全体が消失してしまうため、確実に保護する必要がある。 このように、種そのものは希少でなくても、場所により特別な個体が存在する場合は、適切な保全措置を検討する必要がある。 	①事業実施区域が風衝地であるか否かの情報 ②当該風衝地に生育する植生を強い風の影響から守っている特別な個体の有無 ③その他、特別な個体が存在するか否かの情報	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも生育状況及び生育環境が把握できる1年間。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該風衝地に生育する植生を強い風の影響から守っている特別な個体 その他その場所において特別な役割を果たす個体 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施区域が尾根部に掛かる場合、その場所が風衝地かどうかを確実に把握するとともに、風衝地である場合は、その場所に生育する植生全体を強い風の影響から守っている特別な植物の個体を特定し、保護すること。 					3-③風衝地の保護	

着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息（生育）地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				工事種					確認ポイント 【※評価項目に対応させて記載】			
大分類	中分類	小分類		調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種 【※各回廊ごとに記載】	具体種ごとに留意すべき事項 【※各回廊ごとに記載】	送電線 (上空通過のみ)	送電線 (鉄塔、線下伐採)	風車	地熱	管理用 道路				
4 緑の回廊の連続性の維持に関すること								—	—	—	—	—				
生態系の保護			<p>（上位性注目種）</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境のつながりや比較的広い環境を代表し、栄養段階の上位に位置する、大型でかつ個体数の少ない肉食動物または草食でも天敵が存在しないと考えられる種 小規模な環境における栄養段階の上位に位置する種 <p>これらの生息場所が破壊されるとその存在に重大な影響を及ぼす可能性があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</p> <p>（典型性注目種）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物群集の多様性、生態遷移を特徴づける種・群集又は生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を果たすような種・群集（植物では現存量や専有面積の大きい種、動物では個体数が多い種等）で、これらの生息場所が破壊されるとその存在に重大な影響を及ぼす可能性があり、適切な保全措置を検討する必要がある。 	<p>①生活史、生息・生育環境条件等に関する特性</p> <p>②生息・生育している位置、個体数及び繁殖等の現況</p> <p>③生息・生育していると推定される行動圏又は生育分布地</p> <p>④行動圏又は生育分布地内における他の動植物との関係</p> <p>⑤推定される餌等の種類とその分布面積及びそれらの関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> 動物：春季、夏季、秋季及び冬季の年4回（最低2シーズン） 植物：春季、夏季及び秋季の年3回（最低2シーズン） 	<ul style="list-style-type: none"> 上位性注目種 ※各回廊ごとに、対象地域における生態系内での様々な食物連鎖に留意し、環境のスケールに応じて、事業ごとに対象となる生態系にふさわしい種を選定すること 典型性注目種 ※各回廊ごとに、環境の階層的構造にも着目し、事業ごとに対象となる生態系にふさわしい種・群集を選定すること 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の連続性を維持するために必要な回廊の幅（規模、形状）を確実に確保すること。 地域の動植物種にとって地球温暖化からの移動経路（避難経路を含む）となる自然環境の連続性を維持するために必要な回廊の幅を確実に確保すること。 構造物(擁壁、側溝等)による動植物の移動経路の分断を確実に避けること。 <p>※準備書のうち、「生態系」の項目や、個々の「動物」や「植物」の項目において、上記の内容を確認</p>								<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>4-①緑の回廊の幅の維持</p> <p>4-②移動経路の分断防止</p>

四国局版 評価項目(案)における全リスト

<リストへの追記の考え方> 生息地が奥地国有林であると判断される類・種はリストに追加

<四国局リスト掲載有無の考え方> 四国3県(高知、愛媛、徳島)のレッドリストにおいて、絶滅危惧種Ⅰ類、絶滅危惧種Ⅱ類、準絶滅危惧種になっているものを選択

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リストに掲載有無	四国局リストに掲載有無(2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園希少種データ	緑の回廊モニタリング調査(2014~2016年度、2018~2020年度)	県レッドリスト				
	中分類	小分類	種	属名、別名						地方	高知県(2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
牧原 001	猛禽類(留鳥型)の保護	イヌワシ	イヌワシ			×	×	絶滅危惧ⅠB類(EN)			—	—		絶滅
牧原 002	猛禽類(留鳥型)の保護	クマタカ	クマタカ			○	○	絶滅危惧ⅠB類(EN)	小島方面、杉ノ熊山68、サル谷外3(種保存、環境省EN、高知県CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)		絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	低山から石鎚山系の森林まで幅広く分布	絶滅危惧ⅠB類(EN)
牧原 003	猛禽類(留鳥型)の保護	オオタカ	オオタカ			○	○	準絶滅危惧(NT)		絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)		絶滅危惧2類(VU)		絶滅危惧Ⅱ類(VU)
牧原 004	猛禽類(留鳥型)の保護	オオワシ	オオワシ	北海道地方		×	×	絶滅危惧Ⅱ類(VU)		—		—		—
牧原 005	猛禽類(留鳥型)の保護	オジロワシ	オジロワシ	北海道地方		×	×	絶滅危惧Ⅱ類(VU)		—		—		—
牧原 026	猛禽類(留鳥型)の保護	タカ	メスリノスリ	森林に生息		○	○	記載なし	白猪谷方面(高知県VU、愛媛県DD)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)		情報不足(DD)		—
牧原 036	猛禽類(留鳥型)の保護	タカ	ミサゴ	魚が好き		○	○	準絶滅危惧(NT)	サル谷外(環境省NT、愛媛県NT)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)		準絶滅危惧(NT)		準絶滅危惧(NT)
牧原 035	猛禽類(留鳥型)の保護	フクロウ	オオコノハズク	平地から山地の林		○	×	記載なし	サル谷外(愛媛県DD)	情報不足(DD)		—		準絶滅危惧(NT)
牧原 037	猛禽類(留鳥型)の保護	ハヤブサ	ハヤブサ	市街・住宅地／河川・湖沼／海／農耕地		○	○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	サル谷外(環境省VU、愛媛県VU)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)		絶滅危惧Ⅱ類(VU)		絶滅危惧Ⅱ類(VU)
牧原 020	猛禽類以外(留鳥型)の保護	キツツキ	オオアカゲラ	落葉広葉樹林、針広混交林に生息		○	×	記載なし	三嶽27い、名頃谷山38、サル谷外3(徳島NT)	準絶滅危惧：標高の高い山林に限られる		—		準絶滅危惧(NT)
牧原 021	猛禽類以外(留鳥型)の保護	ヒタキ	トラツグミ	林床の密な森林に生息		○	×	記載なし	小島方面、別府山58、サル谷外3、瀬戸山(徳島NT、高知県NT)	準絶滅危惧		—		準絶滅危惧(NT)
牧原 022	猛禽類以外(留鳥型)の保護	ヒタキ	ルリビタキ	高地に生息		○	×	記載なし	三嶽、白猪谷、名ノ川方面、小島方面(徳島DD、高知県NT、愛媛県VU)	準絶滅危惧(NT)		準絶滅危惧(NT)	石鎚山系から赤石山系などの標高1700m以上の地域	留意(AN)
牧原 023	猛禽類以外(留鳥型)の保護	キジ	ヤマドリ(亜種シコクヤマドリ)			○	×	記載なし	一ノ谷山、名ノ川方面、瀬戸山(高知県NT)	準絶滅危惧		—		—
牧原 024	猛禽類以外(留鳥型)の保護	カラス	ホシガラス	高山のハイマツ林、常緑広葉樹林、針広混交林に生息		○	○	記載なし	瀬戸山212(高知県CR)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)：四国山地の亜高山帯に少数が生息		絶滅危惧2類(VU)	石鎚山系、赤石山系標高1300m以上の森林に周年生息	絶滅危惧ⅠA類(CR)
牧原 028	猛禽類以外(留鳥型)の保護	キバシリ	キバシリ	亜高山帯針葉樹林		○	○	記載なし	白猪谷面、小島方面(高知県NT、愛媛県DD)	準絶滅危惧(NT)		情報不足(DD)	繁殖期には標高の高い森林、面河溪谷や五段高原で観察記録あり	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
牧原 041	猛禽類以外(留鳥型)の保護	アトリ	イカル	落葉広葉樹林、針広混交林で繁殖		×	×	記載なし	瀬戸山212(高知県VU)	—		—		—
牧原 006	猛禽類(渡りをするもの)の保護	猛禽類(渡りをするもの)	トビ	北海道地方		×	×	記載なし		—		—		—
牧原 007	猛禽類(渡りをするもの)の保護	猛禽類(渡りをするもの)	ハテクマ	四国地方		○	○	準絶滅危惧(NT)		絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	低山から亜高山帯まで広く分布	絶滅危惧ⅠB類(EN)
牧原 008	猛禽類(渡りをするもの)の保護	猛禽類(渡りをするもの)	サシバ	四国地方		○	○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)		絶滅危惧Ⅱ類(VU)		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	平地や山間部の林に広く分布	絶滅危惧Ⅱ類(VU)

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国鳥リスト に掲載有無	四国鳥リスト に掲載有無 (2022.1月更新 し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
牧原 019	猛禽類(渡りをするもの)の保護	猛禽類(渡りをするもの)	ハイタカ		山地の森林に 広く分布	○	○	準絶滅危惧(NT)			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	—		準絶滅危惧(NT)
牧原 009	その他希少な渡り鳥の保護	水鳥類	マガン		北海道地方	×	×	準絶滅危惧(NT)			—	—		—
牧原 010	その他希少な渡り鳥の保護	水鳥類	ヒシクイ		北海道地方	×	×	絶滅危惧Ⅱ類(VU)			—	—		—
牧原 032	その他希少な渡り鳥の保護	水鳥類	ヤマシギ		水辺にもいる が、他のシギと 異なり主な生息 地は森林	○	○	記載なし		小島方面(高知県VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	—		準絶滅危惧(NT)
牧原 011	その他希少な渡り鳥の保護	その他	ヤイロチョウ		四国地方	○	○	絶滅危惧ⅠB類(EN)			絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	山地の林	絶滅危惧ⅠA類(CR)
牧原 012	その他希少な渡り鳥の保護	その他	ブッポウソウ		低山帯の森林	○	○	絶滅危惧ⅠB類 (EN)			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	面河溪谷周辺などごく限られた地域	絶滅危惧ⅠA類(CR)
牧原 013	その他希少な渡り鳥の保護	その他	ミソゴイ		四国地方	○	○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	各地の山地の森林	絶滅危惧ⅠB類(EN)
牧原 014	その他希少な渡り鳥の保護	その他	コルリ		四国地方	○	○	記載なし		サル谷外(愛媛県VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	石鎚山系から赤石山系などの山地	—
牧原 015	その他希少な渡り鳥の保護	その他	コマドリ		四国地方	○	○	記載なし		三嶺27い、瀬戸山212(高 知県NT)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	石鎚山系から赤石山系	準絶滅危惧(NT)
牧原 016	その他希少な渡り鳥の保護	その他	コノハズク		四国地方	○	○	記載なし		鷹ノ巣山212(高知県IB)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	石鎚山系から赤石山系標高1000～ 1400m広葉樹林や針広混交林に夏鳥 として渡来する。	絶滅危惧ⅠB類(EN)
牧原 017	その他希少な渡り鳥の保護	その他	エゾムシクイ		山地の落葉広 葉樹林、針広混 交林に生息	○	○	記載なし			準絶滅危惧(NT)	記載なし	石鎚山山頂付近などの標高の高い森 林で繁殖	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
牧原 018	その他希少な渡り鳥の保護	その他	ホオアカ		灌木草原、農耕 地に生息	○	○	記載なし			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	準絶滅危惧(NT)	笹ヶ峰、瓶ヶ森などの標高の高いササ 原や草原で繁殖。	—
牧原 025	その他希少な渡り鳥の保護	その他	オオルリ		山地の溪流沿 い	○	×	記載なし		白猪谷、名ノ川方面、小島 方面、鷹ノ巣山212、瀬戸山 212(高知県NT)	準絶滅危惧(NT)	—		—
牧原 027	その他希少な渡り鳥の保護	その他	メボソムシクイ		森林に生息	○	○	記載なし		白猪谷方面(高知県NT、愛 媛県VU)	準絶滅危惧(NT); 標高の高い山林に 限られる	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	石鎚山系等で繁殖、渡りの時期には 各地	留意(AN)
牧原 029	その他希少な渡り鳥の保護	その他	カヤクグリ		四国の高い山 の針葉樹林	○	○	記載なし		白猪谷、名ノ川方面、サル 谷外3(高知県NT、愛媛県 VU)	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	石鎚山系から赤石山系で繁殖。越冬 期は各地の山地	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
牧原 030	その他希少な渡り鳥の保護	その他	コサメビタキ		山地の、広葉樹 や針広混交林	○	×	記載なし		名ノ川方面(高知県NT)	準絶滅危惧(NT)	—		—
牧原 031	その他希少な渡り鳥の保護	その他	ピンズイ		四国の山地の 林縁や岩地	○	○	記載なし		名ノ川方面、小島方面、サ ル谷外3(高知県NT)	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	石鎚山山頂部・瓶ヶ森・笹ヶ峰などの 亜高山帯で繁殖する。越冬期には平 地から低山地に普通。	—
牧原 033	その他希少な渡り鳥の保護	その他	オオムシクイ		亜高山帯の針 葉樹林・落葉広 葉樹林で繁殖	×	×	記載なし		小島方面(環境省DD、高知 県NT)	記載なし	—		—
牧原 034	その他希少な渡り鳥の保護	その他	クログミ		山地・低山地の 広葉樹林	○	×	記載なし		別府山58(高知県NT)	準絶滅危惧(NT)	—		—
牧原 038	その他希少な渡り鳥の保護	その他	サンショウクイ		落葉広葉樹林、 常緑広葉樹林、 農耕地、住宅周 りに生息	○	○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)		サル谷外(環境省VU、愛媛 県CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)		絶滅危惧ⅠA類(CR)
牧原 039	その他希少な渡り鳥の保護	その他	ヨタカ		疎林、農耕地内 の残存林に生 息	○	○	準絶滅危惧(NT)		西又東2125(環境省NT、 高知県VU)	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	各地の丘陵地から亜高山帯の森林	絶滅危惧ⅠB類(EN)
牧原 040	その他希少な渡り鳥の保護	その他	キビタキ		主として低山帯 の森林に生息	×	×	記載なし		瀬戸山212(高知県NT)	—	—		—
牧原 042	その他希少な渡り鳥の保護	その他	クロジ		主に落葉広葉 樹林とその上の 針広混交林	○	×	記載なし		瓶ヶ森林道(高知県NT)	準絶滅危惧(NT)	—		留意(AN)
西坂 043	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ツキノワグマ		四国地方	○	○	絶滅のおそれのある 地域個体群		三嶺27い、名頃谷山、別府 山58、サイニヨウ66	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類		絶滅危惧ⅠA類

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月更新 し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	徳島県 (2010～2014改訂版)	
西坂 044	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ヒメヒメズ		四国地方	○	○	記載なし		準絶滅危惧		絶滅危惧Ⅱ類	佐々連尾山・西条市笹ヶ峰・石鎚山系 (標高800m以上の山岳地の森林、周 辺の低木林に生息)	留意
西坂 045	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	トガリネズミ		四国地方	○	○	準絶滅危惧		準絶滅危惧(トガリ ネズミ科のシントウ トガリネズミ)	絶滅危惧Ⅱ類 (シントウトガリネズミ)		佐々連尾山・石鎚山系(標高800m以 上の山岳地の森林、周辺の低木林に 生息)	留意
西坂 046	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ニホンカモシカ		近畿中国地方	○	○	絶滅のおそれのある 地域個体群		三嶽27い、ノ谷山209に、 名頃谷山40は、杉ノ熊山67 れ(特天、環境省LP)		絶滅	石鎚山系に生息していた。	-
西坂 047	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ニホンリス		近畿中国地方	×	×	記載なし		杉ノ熊山68、サル谷外3、別 府山68と(高知県NT)	注目種		-	-
西坂 048	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ニホンモモンガ(ホ ンドモモンガ)	樹上性		○	×	記載なし		別府山62へ 名ノ川山264さ、杉ノ熊山67 れ(高知県NT、愛媛県NT) 白猪谷山250ろ(高知県NT、 愛媛県NT) サル谷山外3(愛媛県NT)	準絶滅危惧 (高知県では、高標 高地域に残る針広 混交林のみで確 認)	準絶滅危惧	久万高原町(旧面河村)等各地の山間 部	-
西坂 050	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ヤマネ	低地帯から山地 帯の森林		○	×	記載なし		名ノ川山264さ、名頃谷山40 は、鹿ノ鼻山212、サル谷外 3(天然記念物・愛媛県NT)	-	準絶滅危惧	低地帯から山地帯の森林に生息、生 息確認地が限られる。	-
西坂 051	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	樹上性哺乳類(ム ササビ)		近畿中国地方	×	×	記載なし			-	-	-	-
西坂 055	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	キツネ			×	×	記載なし		名頃谷山38(徳島県NT)	-	-	-	-
西坂 069	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	アズマモグラ		高標高の山地	○	○	記載なし			準絶滅危惧:高標 高地域に限られる	絶滅危惧Ⅱ類	面河溪等、県内での生息確認地が限 られる。	-
西坂 049	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ホンドモモンガ			×	×	記載なし		名ノ川山264さ、杉ノ熊山67 れ(高知県NT、愛媛県NT)				
西坂 054	希少な哺乳類の保護	哺乳類(コウモリ以外)	ホンドモモンガ			×	×	記載なし		白猪谷山250ろ(高知県NT、 愛媛県NT)				
西坂 056	希少な哺乳類の保護	洞窟性コウモリ	キクガシラコウモリ		関東地方	×	×	記載なし		※H29保護林モニタリング調 査 剣山	-	-	-	-
西坂 057	希少な哺乳類の保護	洞窟性コウモリ	モモジロコウモリ		関東地方	×	×	記載なし		※H29保護林モニタリング調 査 石鎚山系・白壁山・剣山	-	-	-	-
西坂 058	希少な哺乳類の保護	洞窟性コウモリ	ユビナガコウモリ		関東地方	×	×	記載なし		※H29保護林モニタリング調 査 剣山	-	-	-	-
西坂 066	希少な哺乳類の保護	洞窟性コウモリ	ノレンコウモリ	高標高地の混 交林		○	○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)		※H29保護林モニタリング調 査 剣山	ノレンコウモリ(準 絶滅危惧):高標高 地域に限られる	絶滅危惧Ⅱ類	面河村、県内では生息確認地が限ら れる。洞窟やトンネル内で単独、数頭 で休息し生息適地が少ない。	準絶滅危惧:高標高地域 の落葉広葉樹林帯に生 息
西坂 059	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	ヤマコウモリ		中部地方	×	×	絶滅危惧Ⅱ類			情報不足(安芸市 で雌雄各1頭確認)	-	-	-
西坂 060	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	コヤマコウモリ		中部地方	×	×	絶滅危惧ⅠB類(EN) ※四国にはいない			-	-	-	-
西坂 061	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	ヒナコウモリ		中部地方	○	○	記載なし		※H29保護林モニタリング調 査 石鎚山系・白壁山	記載なし(科のヒナ コウモリはあるが 種はなし)	絶滅危惧Ⅱ類	面河溪、県内では生息確認地が限ら れる。	-
西坂 062	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	クビワコウモリ		中部地方	×	×	絶滅危惧Ⅱ類(VU) ※四国にはいない			-	-	-	-
西坂 063	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	モリアブラコウモリ		中部地方	○	○	絶滅危惧Ⅱ類		別府山62へ?(高知県DD) ※H29保護林モニタリング調 査 石鎚山系・白壁山・剣山	情報不足	絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	面河溪、石鎚山比較的自然度の高い 森林	-
西坂 064	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	チチブコウモリ		中部地方、四 国地方	○	○	絶滅のおそれのある 地域個体群			情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	県内での生息記録はすべて面河溪で の確認。	-

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト					
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010~2014改訂版)	
西坂 065	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	クロホオヒゲコウモリ	様々な標高の森林	○	○	絶滅危惧II類(VU)		別府山62? (高知県DD、 環境省VU) ※H29保護林モニタリング調査 石鎚山系・白髪山・剣山	情報不足		絶滅危惧II類	面河溪・石鎚山系等、県内での生息確認 地に限られる。	留意: 高標高地域の落葉 広葉樹林帯に生息	
西坂 067	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	ウサギコウモリ	森林内(落葉広 葉樹林、亜寒帯 性針葉樹林)や 洞窟	○	○		(近畿地方以西(愛 媛、徳島))絶滅の おそれのある地域 個体群(LP)		情報不足		絶滅危惧II類(ニホ ンウサギコウモリ)	森林内や洞窟、落葉広葉樹林、亜寒 帯性針葉樹林帯	準絶滅危惧: 高標高地域の 落葉広葉樹林帯に生息	
追加	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	テングコウモリ		×	×	記載なし		※H29保護林モニタリング調査 石鎚山系・白髪山・剣山						
西坂 068	希少な哺乳類の保護	森林性コウモリ	コテングコウモリ	高標高地域の 落葉広葉樹林 帯	○	○	記載なし		※H29保護林モニタリング調査 石鎚山系・白髪山・剣山	-		絶滅危惧II類(テ ングコウモリ)	面河村、県内では生息確認地に限 られる。洞窟やトンネル内で単独、数頭 で休息し生息適地が少ない。	準絶滅危惧: 高標高地域の 落葉広葉樹林帯に生息	
西坂 071	希少な爬虫類・両生類の保護	サンショウウオ類	イシツチサンショウ ウオ	四国地方	○	○	準絶滅危惧				準絶滅危惧	絶滅危惧II類	石鎚山系などの人工林からブナ林な どの広葉樹林帯、標高が500~1700m に分布	準絶滅危惧	
西坂 072	希少な爬虫類・両生類の保護	サンショウウオ類	コガタブササンショ ウオ→ツルギサ ンショウウオ【和名 変更】	四国地方 剣山周辺	○	○	準絶滅危惧				絶滅危惧II類	絶滅危惧II類 準絶滅危惧	石鎚山などに分布	絶滅危惧II類	
追加	希少な爬虫類・両生類の保護	サンショウウオ類	コガタブササンショ ウオ→イヨシマ サンショウウオ【和 名変更】	四国地方	○	○	絶滅危惧II類				絶滅危惧II類	絶滅危惧II類 準絶滅危惧	石鎚山・瓶ヶ森・管ヶ峰などの冷温 帯~亜高山帯に分布、繁殖する。	絶滅危惧II類	
西坂 073	希少な爬虫類・両生類の保護	サンショウウオ類	シコクハコネサン ショウウオ	四国地方	○	○	絶滅危惧II類		瀬戸山212(高知県VU)		絶滅危惧II類	絶滅危惧I A類	石鎚山などに分布 → 石鎚山・瓶ヶ森・管ヶ峰などの冷 温帯~亜高山帯に分布、繁殖する。	絶滅危惧II類 剣山の標高1,300~ 1,955mに分布	
西坂 074	希少な爬虫類・両生類の保護	サンショウウオ類	トウホクサンショウ ウオ	東北地方	×	×	準絶滅危惧(NT) ※四国にはいない				-	-		-	
西坂 075	希少な爬虫類・両生類の保護	サンショウウオ類	クロサンショウウオ	東北地方	×	×	準絶滅危惧(NT) ※四国にはいない				-	-		-	
西坂 076	希少な爬虫類・両生類の保護	イモリ類	アカハライモリ等	関東地方→本 州、四国、九州 地方	○	×	準絶滅危惧				記載なし(注目種リ ストとして記載)	準絶滅危惧	低地から山地の水田、池、沼、川など に生息	準絶滅危惧	
西坂 077	希少な爬虫類・両生類の保護	ヘビ類	タカチホヘビ	山地の湿潤な土 壌中やガ レ場	×	×	記載なし→準絶滅 危惧				- →情報不足		情報不足	県内一帯の山地(久万高原町や小田 深山、四国カルストなど)	- →準絶滅危惧
西坂 078	希少な爬虫類・両生類の保護	カエル類	ニホンヒキガエル		×	×					- →普通種		情報不足 →準絶滅危惧	県内一帯の山地(久万高原町や小田 深山、四国カルストなど) →低山から亜高山帯に生息する	- →準絶滅危惧
西坂 079	希少な水生生物の保護	水生生物(魚類)	ナガレホトケドジョウ	良好な自然環境 が保たれた溪流	○	○	絶滅危惧I B類(EN)					-	絶滅危惧1B類(EN)	吉野川水系銅山川および四国中央市 の遡遊流入河川に分布。	絶滅危惧1B類: 勝浦川を 除く紀伊水道斜面の水系 及び日和佐川水系などの 源流部に生息
西坂 080	希少な水生生物の保護	水生生物(魚類)	クロヨシノボリ	河川の中・上流 域	×	×	記載なし						-	留意: 県南の小河川の上 流域に分布	
西坂 081	希少な水生生物の保護	水生生物(水生昆虫類)			×	×									
追加	希少な水生生物の保護	水生生物(水生昆虫類)	ムラサキトビケラ			×	なし						準絶滅危惧	久万高原町	
西坂 087	希少な水生生物の保護	水生生物(陸産貝類)	マルクチゴマガイ	標高1000m前 後の広葉樹林	○	○	準絶滅危惧(NT)					絶滅危惧II類	準絶滅危惧(NT)	中東部山岳地	絶滅危惧II類: 亜高山帯 から高山帯に分布
西坂 088	希少な水生生物の保護	水生生物(陸産貝類)	ミヤマオオバソマイ マイ	比較的高標高の 落葉広葉樹 林	○	○	絶滅危惧II類(VU)					準絶滅危惧	絶滅危惧I類 (CR+EN)	久万高原町	絶滅危惧種II類: 剣山周 辺地で確認
西坂 089	希少な昆虫類	チョウ類	希少ヒョウモンチョ ウ類	北海道地方	×	×									
西坂 090	希少な昆虫類	チョウ類	ギンイチモンジセセ リ	北海道地方	○	○	準絶滅危惧					絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	久万高原町	絶滅危惧IA類

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
希少な昆虫類	チョウ類	ヒメチャマダラセセリ		北海道地方	×	×	絶滅危惧ⅠA類			なし	なし		なし	
希少な昆虫類	チョウ目 シャチホコガ科	キシヤチホコ			○	×	記載なし					準絶滅危惧	石鐘山系(面河溪)に分布	
希少な昆虫類	チョウ目 シャチホコガ科	ブナアオシャチホコ			×	×	記載なし					情報不足	石鐘山系、面河溪に分布	
希少な昆虫類	チョウ目 シャチホコガ科	オオモクメシャチホコ			×	×	記載なし					情報不足	石鐘山系に分布	
希少な昆虫類	チョウ目 ヤガ科	モンハイロキリガ			×	×	記載なし					情報不足	寒風山、面河溪、瓶ヶ森林道に分布	
希少な昆虫類	チョウ目 ヤガ科	オオシロシタバ			×	×	記載なし					情報不足	瓶ヶ森林道に分布	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 セセリチョウ科	ミヤマチャバネセセリ			○	なし					絶滅危惧Ⅱ類	西条市	準絶滅危惧
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シロチョウ科	スジボソヤマキチョウ			○	なし					絶滅危惧Ⅱ類	久万高原町、西条市	絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	ウラゴマダラシジミ			○	なし					絶滅危惧Ⅱ類	石鐘山系	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	ウラキンシジミ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	ウラクロシジミ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	準絶滅危惧
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	ミドリシジミ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	メスアカミドリシジミ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	アイノミドリシジミ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	キリシマミドリシジミ			○	なし				絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	フジミドリシジミ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	ミヤマカラスシジミ			○	なし				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	久万高原町、西条市	絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少な昆虫類	チョウ目 シジミチョウ科	クロツバメシジミ			○	準絶滅危惧					準絶滅危惧	石鐘山系	絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少な昆虫類	チョウ目 タテハチョウ科	オオウラギンスジヒョウモン			○	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少な昆虫類	チョウ目 タテハチョウ科	シータテハ			○	なし				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	西条市	絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少な昆虫類	チョウ目 タテハチョウ科	オオムラサキ			×	準絶滅危惧				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	準絶滅危惧
追加	希少な昆虫類	チョウ目 タテハチョウ科	ツマジロウラジャノメ			×	なし				準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町、西条市	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 タテハチョウ科	クロヒカゲモドキ			○	絶滅危惧ⅠB類				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	久万高原町、西条市	絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少な昆虫類	チョウ目 イボタガ科	イボタガ			○	なし					絶滅危惧Ⅱ類	久万高原町	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト			
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 スズメガ科	コウテスズメ			×	なし				準絶滅危惧	久万高原町	
追加	希少な昆虫類	チョウ目 ヤガ科	エグリキリガ			×	なし				準絶滅危惧	久万高原町	
希平 092	希少な昆虫類	アリ類			×	×							
希平 093	希少な昆虫類	コウチュウ類	オオチャイロハナムグリ	九州地方	○	○	準絶滅危惧			絶滅危惧Ⅰ類			絶滅危惧種Ⅱ類
希平 095	希少な昆虫類	コウチュウ目 テントウムシダマシ科	ツルギテントウダマシ		○	○	記載なし						絶滅危惧Ⅲ類: 剣山のみ に見られる
希平 096	希少な昆虫類	コウチュウ目 クロツヤムシ科	ツノクロツヤムシ		○	×	記載なし			準絶滅危惧	準絶滅危惧	石鎚山、ブナ帯に限って分布	準絶滅危惧: ブナ帯に生息
希平 106	希少な昆虫類	コウチュウ目 オサムシ科	イシツチオサムシ		○	○	記載なし				絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、(高知県側を含む)四国山脈のほぼ1200m以上の高所の森林内に生息	
希平 107	希少な昆虫類	コウチュウ目 オサムシ科	シワムネオオナガゴミムシ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系、(鷹ノ巣山など高知県側を含む)分布域が限定されている上に、生息密度もかなり低い。	
希平 108	希少な昆虫類	コウチュウ目 オサムシ科	イシツチナガゴミムシ		○	○	記載なし				絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高標高地域に生息し、主にブナの生えている林床が生活圏	
希平 109	希少な昆虫類	コウチュウ目 オサムシ科	サトウナガゴミムシ		○	○	記載なし				絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、湿潤な場所を好んで生活する。	
希平 110	希少な昆虫類	コウチュウ目 オサムシ科	ヒサマツナガゴミムシ		○	○	記載なし				絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系	
希平 111	希少な昆虫類	コウチュウ目 オサムシ科	イシハラヒメナガゴミムシ		×	×	記載なし				情報不足	石鎚山系	
希平 112	希少な昆虫類	コウチュウ目 エンマムシ科	チャイロムネミソツブエンマムシ		×	×	記載なし				情報不足	石鎚山、温帯林に生息	
希平 113	希少な昆虫類	コウチュウ目 クロツヤムシ科	ツノクロツヤムシ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山、ブナ帯に限って分布	
希平 114	希少な昆虫類	コウチュウ目 クワガタムシ科	タカネルリクワガタ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系、標高1500m以上の樹林に生息	
希平 115	希少な昆虫類	コウチュウ目 ナガハナミ科	コクワヤヒゲナガハナノミ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山、面河山に分布	
希平 116	希少な昆虫類	コウチュウ目 ホタル科	シコクスジグロホタル		×	×	記載なし				情報不足	石鎚山系、1000～1500m前後の山地帯に発生し、丈の短い雑木交じりの草原に生息。	
希平 117	希少な昆虫類	コウチュウ目 カツオブシムシ科	シコクマルカツオブシムシ		×	×	記載なし				情報不足	石鎚山、面河溪に分布	
希平 118	希少な昆虫類	コウチュウ目 ヒラタムシ科	ルリヒラタムシ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系、面河溪に分布	
希平 119	希少な昆虫類	コウチュウ目 ナガクチムシ科	セアカナガクチキ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系のブナ帯に生息	
希平 120	希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	ヒゲフトハナカミキリ		×	×	記載なし				情報不足	石鎚山系のブナ帯に生息	
希平 121	希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	シコクヒメコブハナカミキリ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系のカツラの太木に生息	
希平 122	希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	ムナミゾハナカミキリ		○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系に生息	
希平 123	希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	フタスジカタビロハナカミキリ		○	○	記載なし				絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系に生息	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト			
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	タケウチホソハナカ ミキリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系に生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	イガブチヒゲハナカ ミキリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系に生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	イシツチヒメハナカミ キリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系に生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	マホロバヒメハナカ ミキリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系、落葉広葉樹林帯に局所的 に生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	シコクヒメヨツスジハ ナカミキリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山金山谷周辺での生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	エトトラカミキリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系に生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	オオアオカミキリ			○	×	記載なし				準絶滅危惧	石鎚山系に生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 マルトゲムシ科	イシツチチビマルト ゲムシ			×	×	記載なし				要注意種	石鎚山、高所部での生息	
希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	ニセシナノクロフカミ キリ			×	×	記載なし				要注意種	石鎚山系	
追加	希少な昆虫類	コウチュウ目 ゲンゴロウ科	キボシケシゲンゴ ロウ			×	情報不足(DD)				準絶滅危惧	久万高原町	
追加	希少な昆虫類	コウチュウ目 テビシデムシ科	イシツチツヤテビ シデムシ			○	記載なし				絶滅危惧II類	久万高原町	
追加	希少な昆虫類	コウチュウ目 タمامシ科	アオタمامシ			○	記載なし			絶滅危惧II類	準絶滅危惧	石鎚山系	
追加	希少な昆虫類	コウチュウ目 ナガクチキムシ科	キオビホソナガク チキ			×	記載なし				準絶滅危惧	久万高原町	
追加	希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	トゲウスバカミキリ			×	記載なし			準絶滅危惧	準絶滅危惧	久万高原町	
追加	希少な昆虫類	コウチュウ目 カミキリムシ科	ヒラヤマコブハナカ ミキリ			○	記載なし			絶滅危惧II類	準絶滅危惧	石鎚山系、久万高原町	
希少な昆虫類	トンボ類(トンボ目 ムカシトンボ 科)	ムカシトンボ		四国地方	○	×	記載なし				準絶滅危惧		
希少な昆虫類	カメムシ目 セミ科	コエゾゼミ			○	×	記載なし			準絶滅危惧	準絶滅危惧	石鎚山系、血ヶ峰連峰、大川嶺の連続 する山域、標高1400m前後のブナ林、 ウラジロモミ林などに生息、下限は 1000m付近	準絶滅危惧:標高1300m 以上に生息
希少な昆虫類	カメムシ目 セミ科	コエゾゼミ			○	×	記載なし			準絶滅危惧	準絶滅危惧	石鎚山系、血ヶ峰連峰、大川嶺の連続 する山域、標高1400m前後のブナ林、 ウラジロモミ林などに生息、下限は 1000m付近	
希少な昆虫類	カメムシ目 カメムシ科	シコクチフトカメム シ			×	×	記載なし				情報不足	石鎚山に分布	
希少な昆虫類	ハエ目 シギアブ科	イトウフトアブ			○	×	記載なし	情報不足 (DD)			準絶滅危惧	石鎚山、面河溪の山地樹林内の溪流 周辺の見られ、基準産地は面河溪	
希少な昆虫類	ハエ目 クサアブ科	ネグロクサアブ			×	×	情報不足				情報不足	石鎚山系に生息	
希少な昆虫類	バッタ目 ササキリモドキ科	イシツチササキリモ ドキ			×	×	記載なし				要注意種	堂ヶ森、石鎚山～寒風山に生息	
希少な昆虫類	バッタ目 ササキリモドキ科	エヒメフタエササキ リモドキ			×	×	記載なし				要注意種	面河溪に生息	
希少な昆虫類	バッタ目 ササキリモドキ科	イヨササキリモドキ			×	×	記載なし				要注意種	赤石山系～石鎚山ブナ帯に生息	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト					
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010~2014改訂版)	
希少な昆虫類	バツ目 カマドウマ科	イシツチクチキウマ			×	×	記載なし					要注意種	石鎚山、堂ヶ森ブナ帯より高標高の森林に生息		
希少な昆虫類	バツ目 カマドウマ科	シコクチキウマ			×	×	記載なし					要注意種	石鎚山、ブナ帯より高標高の森林に生息		
希少な昆虫類	ナナフシ目 ナナフシ科	シラキトビナナフシ			×	×	記載なし					情報不足	面河溪のみに生息		
希少な昆虫類	トビケラ目 エグリトビケラ科	タニダミヤマトビケラ			×	×	記載なし					情報不足	瓶ヶ森、河川源流部の細流に生息		
希少な昆虫類	シリアゲムシ目 シリアゲムシ科	シコクミスジシリアゲ			×	×	情報不足					情報不足	面河溪、石鎚山系の主に標高1500m以上で生息		
希少な昆虫類	クモ目 サラゴモ科	サラガミネヤマサラゴモ			×	×	記載なし					要注意種	石鎚山、標高の高い一部の地域		
希少な昆虫類	クモ目 ヤチゴモ科	ダイセンヤチゴモ			×	×	記載なし					要注意種	石鎚山、大川嶺、標高1200~1400m以上の標高の高い山地の森林だけに分布		
希少な昆虫類	クモ(蛛形)綱 ゼトウムシ目 マザトウムシ科	ヤマスベザトウムシ			×	×	記載なし					要注意種	石鎚山系		
希少な昆虫類	クモ(蛛形)綱 ゼトウムシ目 イトクチザトウムシ科	カブトザトウムシ			×	×	記載なし					要注意種	石鎚山系、ブナ帯の林床落葉落枝中へのみ生息		
希少な昆虫類	クモ(蛛形)綱 ダニ目 クロツヤムシダニ科	ミヤタケクロツヤムシダニ			○	×	記載なし					準絶滅危惧	石鎚山系		
希少ない重要な植物種		ナヨシダ			○	○						絶滅危惧IA類		絶滅危惧IA類: 剣山に生息全ての地域に生息	
希少ない重要な植物種		ミヤマシダ			○	○								絶滅危惧IA類: 剣山に生息	
希少ない重要な植物種		オシダ			○	○						絶滅危惧IA類		絶滅危惧IA類: 剣山に生息	
希少ない重要な植物種		ズダヤクシュ			○	○						絶滅危惧 I A類	石鎚山系、ブナ林から亜高山針葉樹林の林床に生える多年草	絶滅危惧IA類: 剣山に生息	
希少ない重要な植物種		ハクサンハタザオ			○	○						絶滅危惧 II 類		絶滅危惧IA類: 剣山の石灰岩地に生息	
希少ない重要な植物種		キレンゲショウマ			○	○						絶滅危惧 II 類		絶滅危惧IA類: 剣山の石灰岩地に生息	
希少ない重要な植物種		ツルギカンギク			○	○						絶滅危惧IB類		絶滅危惧IA類: 剣山の石灰岩地に生息	
希少ない重要な植物種		ミヤマウイキョウ			○	○								絶滅危惧IA類: 剣山に生息	
希少ない重要な植物種		エゾフユノハナワラビ			○	○						絶滅危惧IA類		絶滅危惧IB類: 剣山周辺に生息	
希少ない重要な植物種		イシツチカラマツ			○	○						絶滅危惧IB類	情報不足	石鎚山系、	絶滅危惧IB類: 剣山に生息
希少ない重要な植物種		ミヤマモミジイチゴ			○	○								絶滅危惧 II 類: 剣山に生息	
希少ない重要な植物種		テバコワラビ			○	○						絶滅危惧 II 類	準絶滅危惧	石鎚山系	準絶滅危惧: 剣山や矢筈山に生息
希少ない重要な植物種		ミヤマフタバラン			×	×								留意: 剣山に生息が記録	
希少ない重要な植物種		ホソバノキソチドリ			×	×								留意: 剣山に生息が記録	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国周リスト に掲載有無	四国周リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010~2014改訂版)
161	希少ないし重要な植物種	ニレ	ハルニレ		○	×			維管束植物:徳島県の準絶滅危惧種(三額27い林小班)	情報不足				準絶滅危惧
162	希少ないし重要な植物種	バラ	アズキナシ		○	○			一ノ谷山209に、名ノ川山264さ(高知県VU)	絶滅危惧Ⅱ類				
163	希少ないし重要な植物種	ウラボシ	ホテイシダ		○	×			白猪谷山250ろ(高知県NT、愛媛県EN)	準絶滅危惧				準絶滅危惧
164	希少ないし重要な植物種	ボタン	ヤマシャクヤク		○	×			白猪谷山250ろ(環境省NT)		県内高嶺高域多数生息			準絶滅危惧
165	希少ないし重要な植物種	ゴマノハグサ	ヒナノウスツボ		○	×			白猪谷山250ろ(愛媛県NT)			準絶滅危惧	石鎚山系、山地の湿った林内に生える多年草	
166	希少ないし重要な植物種	キク	ミヤマコウモリソウ		○	○			白猪谷山250ろ(環境省EN)	絶滅危惧Ⅱ類				絶滅危惧IA類
167	希少ないし重要な植物種	ラン	エビネ		○	○			白猪谷山250ろ(環境省NT、高知県VU、愛媛県VU)(H30石鎚P31参照)					絶滅危惧Ⅱ類
168	希少ないし重要な植物種	ラン	キソエビネ		○	○			白猪谷山250ろ(環境省NT、高知県VU、愛媛県VU)(H30石鎚P31参照)		過去の生息地点は愛媛県側だった			絶滅危惧IA類
169	希少ないし重要な植物種	ヒカゲノカズラ	スギラン		○	○			名ノ川山264さ(環境省VU、高知県VU、愛媛県VU)	絶滅危惧IB類		絶滅危惧ⅠB類(ヒメスギラン)	石鎚山系	絶滅危惧Ⅱ類
170	希少ないし重要な植物種		エビラシダ		○	○			名頃谷山38(徳島県IB)	絶滅危惧IB類				絶滅危惧IB類
171	希少ないし重要な植物種		ヒメイトラノオ		○	○			鹿ノ鼻山1212(高知県IB)	絶滅危惧IB類				絶滅危惧IA類
172	希少ないし重要な植物種		ミヤマベニシダ		○	○						絶滅危惧ⅠA類	石鎚山系	
173	希少ないし重要な植物種		オオバショリマ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、標高の高い樹林内	
174	希少ないし重要な植物種		シコクシラベ		○	×						準絶滅危惧	石鎚山、笹ヶ峰、四国の垂高山帯に生える常緑針葉樹	
175	希少ないし重要な植物種		ハリモミ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、常緑の針葉高木	
176	希少ないし重要な植物種		ミヤマビヤクシン		○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、高山の岩壁に生える	
177	希少ないし重要な植物種		ネズコ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、高海拔地の尾根などの岩角地に生える	
178	希少ないし重要な植物種		イチイ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、冷温帯から亜寒帯に分布	
179	希少ないし重要な植物種		コケミズ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、山地の湿った所に生える小さな1年草	
180	希少ないし重要な植物種		ツクバネ		○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、ツガ、モミアセビなどが生える薄せた樹林内に生える	
181	希少ないし重要な植物種		ツチトリモチ		○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、ハイノキ属などの照葉樹の根に寄生する多年草	
182	希少ないし重要な植物種		クリンユキフデ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、深い山中の樹林内に生える多年草	
183	希少ないし重要な植物種		オオヤマフスマ		○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、大川嶺山地の草地に生える小さな多年草	
184	希少ないし重要な植物種		ヒゲネワチガイソウ		○	○						絶滅危惧ⅠA類	瓶ヶ森、山岳の明るい林床に生える多年草	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010~2014改訂版)
185	希少ないし重要な植物種	テバコマンテマ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、	
186	希少ないし重要な植物種	ヤナギノコゾチ			×	×						情報不足	石鎚山、	
187	希少ないし重要な植物種	オオヤマレンゲ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、高所の落葉広葉樹林に生える落葉小高木	
188	希少ないし重要な植物種	シコクイチゲ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、	
189	希少ないし重要な植物種	シコクバイカオウレン			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、	
190	希少ないし重要な植物種	モミジカラマツ			×	×						情報不足	瓶ヶ森、亜高山帯あるいは高山帯の湿った湿地	
191	希少ないし重要な植物種	チャボツメレンゲ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	瓶ヶ森、山地の岩上に生える多年草	
192	希少ないし重要な植物種	イワネコノメソウ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、高海拔地の沢沿いの陰湿地に生える多年草	
193	希少ないし重要な植物種	ヤシャビシャク			○	○						絶滅危惧ⅠB類 準絶滅危惧	石鎚山系、深い山の樹上に生育する落葉低木	
194	希少ないし重要な植物種	カスミザクラ			×	×						情報不足	石鎚山、樹高15~20m程度の落葉低木	
195	希少ないし重要な植物種	オオヤマザクラ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、瓶ヶ森、山地に生える落葉高木	
196	希少ないし重要な植物種	インヅチザクラ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、	
197	希少ないし重要な植物種	シコクシモツケソウ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠB類	寒風山、瓶ヶ森、冷温帯上部の林縁などに生える多年草	
198	希少ないし重要な植物種	ミヤマダイコンソウ			○	○						絶滅危惧ⅠA類	石鎚山、高山に生える多年草	
199	希少ないし重要な植物種	イワキンバイ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、寒風山、山岳高所の岩場に生える多年草	
200	希少ないし重要な植物種	ミツモトソウ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山地の渓谷沿いの湿った所に生える多年草	
201	希少ないし重要な植物種	ツルキジムシロ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	瓶ヶ森、冷温帯の山地の草地や岩石地に生える多年草	
202	希少ないし重要な植物種	フジイバラ			○	×						準絶滅危惧	寒風山、大川嶺の高山の日当たりの良い林縁や疎林の中に生える小低木	
203	希少ないし重要な植物種	タカネバラ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、高山や亜高山帯の日当たりの良い針葉樹林帯やハイマツ帯に生育する	
204	希少ないし重要な植物種	インヅチイチゴ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山上部の岩場に生える落葉小低木	
205	希少ないし重要な植物種	ハスノハイチゴ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、山地に稀に生える落葉低木	
206	希少ないし重要な植物種	イワガサ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	寒風山、石鎚山系、山地や海岸の岩場に生える落葉低木	
207	希少ないし重要な植物種	イヨノミツバイワガサ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	寒風山、蛇紋岩地に生える落葉低木	
208	希少ないし重要な植物種	シモツケ			○	×						準絶滅危惧	寒風山、石鎚山系、日当たりの良い岩礫地に生える落葉低木	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
209	希少ないし重要な植物種	ホソバツツゲ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、高所の樹林内に生える常緑低木	
210	希少ないし重要な植物種	ヒロハツリバナ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	笹ヶ峰、石鎚山系、温帯の山地に生える落葉小高木	
211	希少ないし重要な植物種	オオクマヤナギ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、やや蔓性の落葉低木	
212	希少ないし重要な植物種	クロカンバ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、山地の岩隙地などに生える落葉樹	
213	希少ないし重要な植物種	キバナノコマツツメ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高木の樹林やササ原に接する日当たりの良い湿った場所に生える多年草	
214	希少ないし重要な植物種	ヒトツバエソスミレ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	瓶ヶ森、	
215	希少ないし重要な植物種	ミヤマスミレ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、山地に生える多年草	
216	希少ないし重要な植物種	ケゴンアカバナ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、冷温帯～亜高山帯の谷沿いや湿った林床に生える多年草	
217	希少ないし重要な植物種	イワアカバナ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、冷温帯の谷沿いや湿った林床に生える多年草	
218	希少ないし重要な植物種	ゴゼンタチバナ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山帯の針葉樹林の林床に生える多年草	
219	希少ないし重要な植物種	ウラジロウコギ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、おもに石灰岩地に生える落葉樹	
220	希少ないし重要な植物種	ミヤマノダケ			×	×						情報不足	瓶ヶ森、丘陵地の林縁などに自生	
221	希少ないし重要な植物種	ハナビゼリ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、山地に生える多年草	
222	希少ないし重要な植物種	イシツチボウフウ			○	○	絶滅危惧ⅠA類					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、稜線付近の岩隙に生える多年草	
223	希少ないし重要な植物種	ハナウド			×	×						情報不足	石鎚山系	
224	希少ないし重要な植物種	ツルギハナウド			○	○	絶滅危惧ⅠB類					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高所の谷間の岩場に生える多年草	
225	希少ないし重要な植物種	ハクサンシャクナゲ			○	○						絶滅危惧ⅠA類	石鎚山系、亜高山の稜線付近に生える常緑低木	
226	希少ないし重要な植物種	ツマトリソウ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山の草地に生える小さな多年草	
227	希少ないし重要な植物種	ハナイカリ			○	○						絶滅危惧ⅠA類	石鎚山系、山地の日当たりの良い所に生える一年草	
228	希少ないし重要な植物種	ホソバツツリンドウ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠA類	石鎚山、山地の林縁などに生える多年草	
229	希少ないし重要な植物種	シノメソウ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠB類	大川嶺、落葉広葉樹林の林床にきわめて稀に生える一年草	
230	希少ないし重要な植物種	クサタチバナ			○	○	準絶滅危惧					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、やや冷涼な山地の林縁や草地に生える多年草	
231	希少ないし重要な植物種	エゾノツバムグラ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山帯の針葉樹林の林床に生える多年草	
232	希少ないし重要な植物種	ウススキムグラ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、山地に生える小さな多年草	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
233	希少ないし重要な植物種	イガホオズキ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、山地の木陰や林縁に生える多年草	
234	希少ないし重要な植物種	トサゴメグサ			×	×						情報不足	石鎚山、高所の草地に生える小型の草木	
235	希少ないし重要な植物種	ナヨナヨゴメグサ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠB類	笹ヶ峰、石鎚山系、四国山地の岩礫に生える小さな一年草	
236	希少ないし重要な植物種	オオナンバンギセル			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山野の草地に生える一年草	
237	希少ないし重要な植物種	キヨスミウツボ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山地の林内に生える寄生植物	
238	希少ないし重要な植物種	キンギンボク			×	×						情報不足	石鎚山系、山地に生える落葉低木	
239	希少ないし重要な植物種	イワツクバネウツギ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、石灰岩地や蛇紋岩地などに生える落葉低木	
240	希少ないし重要な植物種	カノコソウ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の林内や湿った草地に生える多年草	
241	希少ないし重要な植物種	マツムシソウ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、山地の草地に生える越年草	
242	希少ないし重要な植物種	ソバナ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の草地や崖地、林縁に生える多年草	
243	希少ないし重要な植物種	モミジハグマ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、深い山中の木陰に生える多年草	
244	希少ないし重要な植物種	ヒロハヤマヨモギ			×	×	準絶滅危惧					情報不足	石鎚山系(瓶ヶ森)、山地の乾いた草林縁に生える	
245	希少ないし重要な植物種	コモノギク			×	×						情報不足	石鎚山系、山地の岩場や岩礫地に生える多年草	
246	希少ないし重要な植物種	イワギク			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、高山の岩場などに生える多年草	
247	希少ないし重要な植物種	ヒメアザミ			×	×						情報不足	石鎚山系、低山の原野や草地に生える	
248	希少ないし重要な植物種	ヤマアザミ			×	×						情報不足	石鎚山系、山地に生える多年草	
249	希少ないし重要な植物種	クサノオウバノギク			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠB類	笹ヶ峰、石鎚山系、高所の山地の林縁や岩礫地に生える多年草	
250	希少ないし重要な植物種	タカネニガナ			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、高山の日当たりの良い岩場などに生える多年草	
251	希少ないし重要な植物種	カニコウモリ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山帯の針葉樹林内に生える多年草	
252	希少ないし重要な植物種	ヒメコウモリソウ			×	×	絶滅危惧Ⅱ類					情報不足	石鎚山系、深山の湿気のある落葉樹林の林床、林縁に生える多年草	
253	希少ないし重要な植物種	ヤマタミミンガサ			×	×						情報不足	石鎚山系、深山の湿気のある落葉樹林の林床、林縁に群生する	
254	希少ないし重要な植物種	オオダイウヒレン			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山岳地の岩場や林床に生える多年草	
255	希少ないし重要な植物種	オオトウヒレン			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高所の山地に稀に生える多年草	
256	希少ないし重要な植物種	ミヤマトウヒレン			○	○						絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山岳地の岩場に生える多年草	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト			
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
257	希少ないし重要な植物種	ヤマボクチ			×	×					情報不足	石鎚山系、向陽のやや乾いた草地や林縁に生える大型の多年草	
258	希少ないし重要な植物種	ネバリノギラン			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高所の草地に生える多年草	
259	希少ないし重要な植物種	シコクギボウシ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高所の岩場に生える多年草	
260	希少ないし重要な植物種	ホソバノアマナ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、冷温帯の山地の明るい林床や草地に生える多年草	
261	希少ないし重要な植物種	ウナズキツクバネソウ			○	○					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、山地の樹林内に生える多年草	
262	希少ないし重要な植物種	クルマバツクバネソウ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、冷温帯の林内に生える多年草	
263	希少ないし重要な植物種	ミヤマナルコユリ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の林内に生える多年草	
264	希少ないし重要な植物種	チャボゼキショウ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高所の岩場に生える小型の多年草	
265	希少ないし重要な植物種	イトイ			×	×					情報不足	石鎚山系、山地から亜高山の岩場に生える多年草	
266	希少ないし重要な植物種	ミヤマヌカボ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高山や亜高山の岩礫地、寒冷地の海岸や岩場に生える多年草	
267	希少ないし重要な植物種	インツチコウボウ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高山や亜高山に生える多年草	
268	希少ないし重要な植物種	コメスキ			○	×					準絶滅危惧	石鎚山系、向陽の高山砂礫地に生える多年草	
269	希少ないし重要な植物種	イワノガリヤス			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、高山や亜高山の陽地の草地に生える多年草	
270	希少ないし重要な植物種	タカネノガリヤス			○	○					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、高山の荒原や草地に生える多年草	
271	希少ないし重要な植物種	シコクノガリヤス			○	○					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山地に生える多年草	
272	希少ないし重要な植物種	ヒロハノコメスキ			○	×					情報不足	石鎚山、高山の砂礫地や草地などに生える多年草	
273	希少ないし重要な植物種	チイサンウシノゲサ			×	×	絶滅危惧Ⅱ類				情報不足	石鎚山、高山の風衝砂礫地に生える多年草	
274	希少ないし重要な植物種	ノブキトシガラ			×	×					情報不足	瓶ヶ森、山地の草地や林縁部に生える多年草	
275	希少ないし重要な植物種	イワタケソウ			○	○					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、山地の林内に生える多年草	
276	希少ないし重要な植物種	コメガヤ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の林内や草地に生える比較的小型の多年草	
277	希少ないし重要な植物種	タチネズミガヤ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の林内や林縁に生える多年草	
278	希少ないし重要な植物種	オオネズミガヤ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の林内や林縁に生える多年草	
279	希少ないし重要な植物種	タツノヒゲ			○	○					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、山地の林内や林縁に生える多年草	
280	希少ないし重要な植物種	ヒロハノハネガヤ			○	○					絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、山地の林内や草地に生える多年草	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
281	希少ないし重要な植物種	チシマカニツリ			×	×						情報不足	石鎚山系、主に亜高山帯以上に生える多年草	
282	希少ないし重要な植物種	ツルギテンナンショウ			○	○	絶滅危惧 I B類					絶滅危惧 I B類	佐々連尾山、石鎚山、四国の中央部の山地に生える多年草	
283	希少ないし重要な植物種	イシツチテンナンショウ			○	○	絶滅危惧 I A類					絶滅危惧 I B類	石鎚山系、四国の中央山地に生える多年草	
284	希少ないし重要な植物種	ハリガネスゲ			×	×						情報不足	石鎚山、平地の湿地に四国の中央山地に生える多年草	
285	希少ないし重要な植物種	ヒカゲハリスゲ			×	×						情報不足	笹ヶ峰、石鎚山、山地の湿った林内に生える小型の多年草	
286	希少ないし重要な植物種	クジュウスゲ			○	×						準絶滅危惧	笹ヶ峰、石鎚山系、ブナ帯の林内に生える多年草	
287	希少ないし重要な植物種	ミヤマアオスゲ			×	×						情報不足	石鎚山、林床に生える多年草	
288	希少ないし重要な植物種	オオミズゴケ			○	○	準絶滅危惧					絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、	
289	希少ないし重要な植物種	コアナミズゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、岩上にわずかに生育	
290	希少ないし重要な植物種	キセルゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山、高所の草本類の少ない地上に生育	
291	希少ないし重要な植物種	クマノゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山、海拔1610m以上から生育	
292	希少ないし重要な植物種	ハグルマゴケ (イボタチゴケモドキ)	イボタチゴケモドキ		○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、高山帯から亜高山帯の草本類の少ない日当たりの良い地上に群生	
293	希少ないし重要な植物種	イシツチゴケ			○	○	絶滅危惧 II 類					絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、高山帯から亜高山帯海拔1400m	
294	希少ないし重要な植物種	タチチョウチンゴケ			○	○	絶滅危惧 I 類					絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	面河溪、湿度の高い渓谷や産地の樹幹や横枝に着生	
295	希少ないし重要な植物種	カンリハチョウチンゴケ (ムツデチョウチンゴケ)	ムツデチョウチンゴケ		○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、亜高山針葉樹林帯の林床に生育	
296	希少ないし重要な植物種	フジマンネングサ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、面河溪、亜高山針葉樹林帯の林床に生育	
297	希少ないし重要な植物種	カトウゴケ			○	○	準絶滅危惧					絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	面河溪、花崗岩など酸性岩類の岩壁で雨露が当たらない壁面に生育	
298	希少ないし重要な植物種	ミズスキモドキ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	面河溪、	
299	希少ないし重要な植物種	レイシゴケ			○	○	絶滅危惧 II 類					絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山、	
300	希少ないし重要な植物種	オオミツヤゴケ			○	○	絶滅危惧 II 類					絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山、	
301	希少ないし重要な植物種	フトゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山、高山コケで頂上付近にわずかに生育	
302	希少ないし重要な植物種	サワラゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	笹ヶ峰、石鎚山系、ブナ帯から亜高山帯	
303	希少ないし重要な植物種	テガタゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	石鎚山系、ブナ帯から亜高山帯	
304	希少ないし重要な植物種	カミムラヤスデゴケ			○	○						絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類	面河溪、	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
305	希少ない重要な植物種	シコクヒメクサリゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、面河溪、	
306	希少ない重要な植物種	ヒナゼニゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山、面河溪、歩道傍で個体数が 少ない	
307	希少ない重要な植物種	ホソバミズゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山針葉樹林帯の林床 に群生	
308	希少ない重要な植物種	ウロコミズゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山針葉樹林帯の林床 に群生	
309	希少ない重要な植物種	クロゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、面河溪、高山帯の日当たりの 良い乾いた岩上に生育	
310	希少ない重要な植物種	フウリンゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、面河溪、亜高山帯の岩陰で 雨露の当たらない所に生育	
311	希少ない重要な植物種	セйкаカスギゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山針葉樹林帯の林床 に群生	
312	希少ない重要な植物種	ナヨナヨカガミゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	寒風山、石鎚山系、海拔1000～1600 mのブナ帯	
313	希少ない重要な植物種	コウヤトゲハイゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	面河溪、自然度の高い渓谷の岩上や 腐植土上に群生	
314	希少ない重要な植物種	ダチウゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、亜高山針葉樹林帯から高山 帯のハイマツ群落下に群生	
315	希少ない重要な植物種	フタバムチゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	笹ヶ峰、石鎚山、面河溪、亜高山針葉 樹林帯の腐木や樹木の根元に生育	
316	希少ない重要な植物種	ミヤマシギバゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	笹ヶ峰、石鎚山、亜高山針葉樹林帯の 林床で腐植土や腐木上に生育	
317	希少ない重要な植物種	カタウロコゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、亜高山針葉樹林帯の腐植土 や腐木上に生育	
318	希少ない重要な植物種	ハラウロコゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、亜高山帯から高山帯の湿度 上・岩上・腐木などに生育	
319	希少ない重要な植物種	キノボリヤバネゴケ			○	○	絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類					絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、亜高山帯の樹幹上や岩上に 生育	
320	希少ない重要な植物種	キビシヤクゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山、亜高山針葉樹林帯の腐植土 上に生育	
321	希少ない重要な植物種	コバノホソベリミズゴ ケ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、	
322	希少ない重要な植物種	マツムラゴケ			○	×						準絶滅危惧	面河溪、中間針葉樹林帯から暖帯常 緑広葉樹林帯の岩上に生育	
323	希少ない重要な植物種	オオミミゴケ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、風当たりの強い尾根筋のブ ナなどの樹幹や樹枝に垂れ下がる	
324	希少ない重要な植物種	イワダレゴケ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、面河溪、高山帯から亜高山 帯にかけて腐木上・腐植土などに群生	
325	希少ない重要な植物種	タカネシゲリゴケ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、亜高山帯から高山帯の樹 皮に育成	
326	希少ない重要な植物種	シダレゴヘイゴケ			○	×						準絶滅危惧	面河溪、	
327	希少ない重要な植物種	ホグロハナゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、比較的高い山に生育	
328	希少ない重要な植物種	ナガエノコアカゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、比較的高い山の朽木上ま たは藓類と混じて地上に生育	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
329	希少ないし重要な植物種	テガタアカミゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、亜高山帯の地上に生育	
330	希少ないし重要な植物種	ターバンゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
331	希少ないし重要な植物種	マダラハナゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
332	希少ないし重要な植物種	ツエハナゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
333	希少ないし重要な植物種	ツブミゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	面河溪、全国的に希産種	
334	希少ないし重要な植物種	ニセミヤマキゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的にも分布域の限られた希少種	
335	希少ないし重要な植物種	マルミキゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的にも分布域の限られた希少種	
336	希少ないし重要な植物種	ホネキノリ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
337	希少ないし重要な植物種	コアンチゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的に見ても生育記録が少ない	
338	希少ないし重要な植物種	オニノヒゲ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、主に高山の風衝地において低木上に生育	
339	希少ないし重要な植物種	ハリガネキノリ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
340	希少ないし重要な植物種	エイランタイ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、尾根筋のやや湿り気のある地上に生育	
341	希少ないし重要な植物種	イコマウメノキゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的に見ても極めて稀な種類、生育場所も限られる	
342	希少ないし重要な植物種	コウヤウメノキゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、基の生育量が少なく、分布頻度も低い	
343	希少ないし重要な植物種	フクレセンシゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的に見ても生育量の少ない種類	
344	希少ないし重要な植物種	トゲセンシゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的に見ても生育量の少ない種類	
345	希少ないし重要な植物種	クロカワアワビゴケ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、面河溪、埼玉県と本県のみでしか確認されていない希産種	
346	希少ないし重要な植物種	イワカラクサゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
347	希少ないし重要な植物種	オオナメラカラクサゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
348	希少ないし重要な植物種	トゲナシウメノキゴケ			○	○	絶滅危惧Ⅱ類					絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的にも分布域の限られた希少種	
349	希少ないし重要な植物種	トゲサルオガセ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、比較的 low 山域の樹木に着生	
350	希少ないし重要な植物種	ヨコワサルオガセ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、	
351	希少ないし重要な植物種	ハコネサルオガセ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、比較的 low 山域の樹木に着生	
352	希少ないし重要な植物種	ナヨナヨサルオガセ			×	×						情報不足	石鎚山系、	

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月更新)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
353	希少ないし重要な植物種	ウスベニヒゲゴケ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、比較的低山域の樹木に着生	
354	希少ないし重要な植物種	クシノハサルオガセ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、山地帯から低山帯にかけて生育	
355	希少ないし重要な植物種	アカヒゲゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、	
356	希少ないし重要な植物種	アカヒゲゴケモドキ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、	
357	希少ないし重要な植物種	イトゲジゲジゴケモドキ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的に見ても極めて稀な種類、生育場所も限られる	
358	希少ないし重要な植物種	ヘラゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、全国的に見ても稀産類	
359	希少ないし重要な植物種	オオセンニンゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	面河溪、	
360	希少ないし重要な植物種	タマハナビラゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
361	希少ないし重要な植物種	ホソバシコロゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
362	希少ないし重要な植物種	ホソバカブトゴケモドキ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
363	希少ないし重要な植物種	ヘラガタカブトゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、面河溪、	
364	希少ないし重要な植物種	ツバカブトゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、基の生育量が少なく、分布頻度も低い	
365	希少ないし重要な植物種	キンブチゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、	
366	希少ないし重要な植物種	コウヤクゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、県内では分布頻度が低く生育地点が限られる	
367	希少ないし重要な植物種	エツキセンスゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、	
368	希少ないし重要な植物種	ウチキウラムゴケ			○	×						準絶滅危惧	石鎚山系、県内の分布頻度は低く生育量も少ない	
369	希少ないし重要な植物種	フィリツメゴケ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、四国では本県でしか確認されていない	
370	希少ないし重要な植物種	アカセンニンゴケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、山地の岩上に生育	
371	希少ないし重要な植物種	ウラジロオオイワスマ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類	石鎚山系、生育環境が限られている	
372	希少ないし重要な植物種	アオウロコタケ			○	○						絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類	石鎚山系、接線付近の湿気のある低木内に生育	
373	希少ないし重要な植物種	フランネルゴケ			×	×						情報不足	石鎚山系、	
	希少ないし重要な植物種	アオチドリ			○	○						絶滅危惧ⅠA類		
	希少ないし重要な植物種	アカモノ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類		
	希少ないし重要な植物種	イワオモダカ			○	○						絶滅危惧Ⅱ類		

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト			
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
		オクノカンスゲ			○	○		絶滅危惧Ⅰ類					
		オサシダ			○	○		絶滅危惧Ⅱ類					
		カリヤスモドキ			○	○		絶滅危惧ⅠA類					
		シコクシロギク			○	○		絶滅危惧Ⅱ類					
		シコクトリアシショウマ			○	○		絶滅危惧Ⅱ類					
		シコクハンショウヅル			○	○		絶滅危惧Ⅰ類					
		ツクシガシワ			○	○		絶滅危惧Ⅰ類					
		ナカミシラン			○	○		絶滅危惧Ⅱ類					
		ヒメイチゲ			○	×		準絶滅危惧					
		ヒメイワギボウシ			○	○		絶滅危惧Ⅱ類					
		マルミノヤマゴボウ			○	×		準絶滅危惧					
		ミヤマツチトリモチ			○	○		絶滅危惧ⅠA類					
		ミヨウギシダ			○	○		絶滅危惧ⅠA類					
		ヤマホロシ			○	○		絶滅危惧Ⅰ類					
追加	希少ないし重要な植物種	ヒメスギラン				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	ヒロハハナヤスリ				○	なし				準絶滅危惧(NT)		絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少ないし重要な植物種	マツバラシ				○	準絶滅危惧					絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマドリゼンマイ				×	なし				準絶滅危惧(NT)		
追加	希少ないし重要な植物種	チチブホラゴケ				○	なし				絶滅危惧ⅠA類 (GR)	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	クジャクシダ				○	なし				絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	イチョウシダ				○	準絶滅危惧				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	イワハリガネワラビ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		
追加	希少ないし重要な植物種	イワイヌワラビ				○	なし				絶滅危惧ⅠA類 (GR)		
追加	希少ないし重要な植物種	キリシマヘビノネゴザ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月見直 し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010~2014改訂版)
追加	希少ないし重要な植物種	サカバイヌワラビ				○	絶滅危惧IB類				絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		
追加	希少ないし重要な植物種	シバサトゾシダ				○	絶滅危惧IA類				絶滅危惧IA類 (GR)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	イワウサギシダ				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ウスヒメワラビモド キ				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)			
追加	希少ないし重要な植物種	イワデンダ				○	なし				準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧II類		
追加	希少ないし重要な植物種	チャボイノデ				○	なし				絶滅危惧II類 (VU)	情報不足		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	オオクボシダ				○	なし				絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	カラクサシダ				○	なし				準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧		絶滅危惧II類
追加	希少ないし重要な植物種	ミヤマウラボシ				○	なし				絶滅危惧IB類 (EN)	情報不足		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	クロフネサイシン				○	準絶滅危惧				準絶滅危惧(NT)			絶滅危惧II類
追加	希少ないし重要な植物種	オモゴウテンナン ショウ				○	絶滅危惧I B類				絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧II類		
追加	希少ないし重要な植物種	シコクテンナンショ ウ				○	絶滅危惧I B類				絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	シコクヒロハテンナン ショウ				○	絶滅危惧I B類				絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	キバナノアマナ				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	アキタスズムシソ ウ				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ササバギラン				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	コフタバラン				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ウチョウラン				○	絶滅危惧II類				絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	エゾスズラン				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ショウキラン				○	なし				絶滅危惧I A類 (GR)一部防塵棚 設置済	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	キソチドリ(チガハ キソチドリ、ヒトツ バキソチドリを含む)				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	キンセイラン				○	絶滅危惧II類				絶滅危惧I A類 (GR)一部防塵棚 設置済	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	コアツモリソウ				○	準絶滅危惧				絶滅危惧I A類 (GR)一部防塵棚 設置済	情報不足		
追加	希少ないし重要な植物種	シテンクモキリ				○	なし				絶滅危惧IA類 (GR)			

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国周リスト に掲載有無 (2022.1月見直 し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト			
中分類	小分類	種	属名、別名	地方					高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
追加	希少ないし重要な植物種	ジンバイソウ			○	なし			絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ツリシユスラン			○	なし			絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ノボネチドリ			○	なし			絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	フガクスズムシソ ウ			○	絶滅危惧II類			絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ホザキイチヨウラン			○	なし			絶滅危惧IA類 (GR)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	マツラン	ベニカヤラン		○	絶滅危惧II類			絶滅危惧II類 (VU)(ベニカヤラ ン)	絶滅危惧II類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ミヤマモジズリ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマサギソウ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマトキソウ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ユキザサ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)一部防塵機 設置済	絶滅危惧II類		
追加	希少ないし重要な植物種	サナギスゲ			×	なし			準絶滅危惧(NT)			
追加	希少ないし重要な植物種	ミヤマイワスゲ			○	絶滅危惧II類			絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	アオウシノケグサ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	チイサンウシノケ グサ			○	絶滅危惧II類			準絶滅危惧 (NT)、一部防塵 機設置済	情報不足		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ムカゴツヅリ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	オオバメガ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)			絶滅危惧II類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤチマタイカリソウ			○	準絶滅危惧			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧		絶滅危惧II類
追加	希少ないし重要な植物種	コキンボウゲ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	タマカラマツ			○	絶滅危惧II類			絶滅危惧II類 (VU)	情報不足		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ルイヨウショウマ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	ヒメキンソウ			○	絶滅危惧IB類			注目種(レッドリス トカテゴリ外)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ケミヤマタニタデ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	カスミザクラ			×	なし			情報不足(DD)	情報不足		
追加	希少ないし重要な植物種	ハクロバイ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)			絶滅危惧I類

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国府リスト に掲載有無	四国府リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010~2014改訂版)
追加	希少ないし重要な植物種	キビノクロウメモドキ				○	絶滅危惧Ⅱ類				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	ケンボナシ				○	なし				絶滅危惧ⅡB類(EN)	情報不足		情報不足
追加	希少ないし重要な植物種	ヨコグラノキ				○	なし				準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧Ⅱ類		準絶滅危惧
追加	希少ないし重要な植物種	コバノイラクサ				○	なし				絶滅危惧ⅠA類(OR)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	ツノハシバミ				○	なし				絶滅危惧ⅡB類(EN)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	トモエソウ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	情報不足		絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少ないし重要な植物種	ミツバコンロンソウ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	メグスリノキ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少ないし重要な植物種	オニシバリ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	情報不足		絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	シマサクラガンビ				○	なし				絶滅危惧ⅡB類(EN)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	テウセンナニフズ				○	絶滅危惧Ⅱ類				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	フシグロケンノウ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類		
追加	希少ないし重要な植物種	ユキワリソウ				○	なし				準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	イワカガミ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	キクムグラ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	イケマ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	イシダテクサタチバナ				○	絶滅危惧Ⅱ類				絶滅危惧Ⅱ類(VU)			絶滅危惧Ⅱ類
追加	希少ないし重要な植物種	ミヤマヒキオコシ				×	なし				準絶滅危惧(NT)			
追加	希少ないし重要な植物種	トサノゴメグサ				×	絶滅危惧Ⅱ類				絶滅(EX)			
追加	希少ないし重要な植物種	ムシトリスミレ				○	なし				絶滅危惧ⅠB類(EN)、防塵撒設置法			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	イシダテアザミ				○	なし				絶滅危惧ⅡB類(EN)			絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	オヤマボクチ				○	なし				絶滅危惧ⅠA類(OR)	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	コウシュウヒゴタイ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅰ類
追加	希少ないし重要な植物種	トゲアザミ				×	なし				準絶滅危惧(NT)			

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無 (2022.1月見直し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014~2016年度、2018~ 2020年度)	県レッドリスト			
中分類	小分類	種	属名、別名	地方					高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県	
追加	希少ないし重要な植物種	ヒロハヤマヨモギ			○	準絶滅危惧			絶滅危惧IA類 (GR)	情報不足		
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマズハハコ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマタイミンガサ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)	情報不足		情報不足
追加	希少ないし重要な植物種	タカネマツムシソウ			○	なし			絶滅危惧IA類 (GR) - 一部防直 灌叢置済			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマウグイスカグ ラ			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)			
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマヒョウタンボク			○	なし			絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧II類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	イストウキ			○	絶滅危惧II類			準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧II類		絶滅危惧II類
追加	希少ないし重要な植物種	トサボウフウ			○	絶滅危惧II類			絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヒュウガセンキュウ			○	絶滅危惧IA類			絶滅危惧II類 (VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	ホタルサイコ			○	なし			絶滅(EX)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ミヤマノダケ			○	絶滅危惧IA類			絶滅危惧II類 (VU)	情報不足		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヤマミソソバ			○	なし			絶滅危惧I類			
追加	希少ないし重要な植物種	ツルツゲ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	コケシノブ			○	なし			絶滅危惧I類			
追加	希少ないし重要な植物種	クロベ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧II類(VU)		
追加	希少ないし重要な植物種	オオウラジロノキ			○	なし			絶滅危惧I類			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヒメフウロ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	オヒョウ			○	なし			絶滅危惧I類	絶滅危惧II類(VU)		絶滅危惧II類(VU)
追加	希少ないし重要な植物種	クロボシソウ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	ヒナスミレ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)			
追加	希少ないし重要な植物種	ヒナチドリ			○	絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類	絶滅危惧I類		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ヒツボクロ			○	なし			絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧II類(VU)		絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	カモメラン			○	準絶滅危惧(NT)			絶滅危惧I類			絶滅危惧I類
追加	希少ないし重要な植物種	ホソバシロスマレ			○	絶滅危惧II類 (VU)			絶滅危惧I類	準絶滅危惧(NT)		絶滅危惧I類

評価項目標準例に掲載されている類、種					四国局リスト に掲載有無	四国局リスト に掲載有無 (2022.1月更新 し)	環境省レッドデータ	牧野植物園 希少種データ	緑の回廊モニタリング調査 (2014～2016年度、2018～ 2020年度)	県レッドリスト				
中分類	小分類	種	属名、別名	地方						高知県 (2017改訂版)	高知県(2020)	愛媛県		徳島県 (2010～2014改訂版)
追加	希少ないし重要な植物種	マルバノイチヤクソ ウ				○	なし				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)			
	希少種の生息環境を構成している植物種													
	希少ないし重要な植物群落													
	希少種の生息環境を構成している植物群落													
	その場所の植生全体を強い風の影響から守っている特別な植物の個体													

2022.1.31作成案に対する保護林委員の意見(緑の回廊の設定方針に設定する評価項目)

2022.2.17現在

氏名	所属	意見	対応
松井宏光	松山東雲短期大学	<p>p4:ツキノワグマ 小グマ → 子グマ 捕食 → を好む? を採餌? ドングリなど植物は「捕食」はあまり使わない。</p>	指摘通り修正。
		<p>p7:水生生物(魚類、・・・陸産貝類等) ※陸産貝類は森林の落葉の中や樹上にすむものですから水生生物には含まれません。水生生物(魚類、・・・淡水産貝類等)とするのがいいでしょう。ただ四国の上流域では淡水産貝類の希少種はほとんどないと思います。 例示のマルクチゴマガイとヤマオオベソマイマイはいずれも希少種ですがブナ林などの落葉下にすむ陸産貝です。陸産貝には希少種が多いので、水生生物(魚類、・・・底生動物等)および陸産貝類等とするのがいいでしょう。</p>	指摘通り修正。
		<p>p8:コウチュウ類 「コウチュウ」は「甲虫」でもいいのでは。 「変態は卵・・・という完全変態を行う。」この文章は甲虫の一般的な説明であり必要ないでしょう。つづく食性の説明は多様な環境が必要との意味であってもいいです。</p>	指摘通り修正。
		<p>p10:植物種の保護、植物群落の保護 種子維管束植物 維管束植物にはシダ植物と種子植物が含まれるが、種子維管束植物(この表現はあまり見ないが)となればシダ植物が含まれない。シダ植物には希少種が多いので、<u>維管束植物がいいでしょう。</u></p>	これまで通り、「維管束植物」と記載。

氏名	所属	意見	対応
前田綾子	高知県立 牧野植物園	項目名(左から2つ目)「当該生物種の生息地等に共通する特徴」を「当該生物種の生息(生育)地等に共通する特徴」に変更	指摘通り修正。
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 「希少ないし重要な植物種」は、説明からすると、「希少ないし保護上重要な植物個体」では？</p>	<p>希少ないし重要な植物種とは、「植物における希少種ないし重要な種」を示しています。「希少種」、「重要な種」等を使用する「種」という表現は発電所アセス省令第23条(注)で使用されている表現であり、評価項目でも使用すべき表現と考えています。</p> <p>そのため、指摘を踏まえ、以下の修文。 重要な植物種とは、地元住民から信仰等の対象となっている巨樹、巨木、老木、古木等という。→重要な植物種とは、地元住民から信仰等の対象となっている巨樹、巨木、老木、古木等の植物個体をいう。</p> <p>(注)発電所アセス省令第23条 大規模な開発事業を行う事業者は、環境影響評価法に基づく環境アセスメントを行うことが義務づけられていますが、具体的には、主務省令で定めるところにより、対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法を作成することとされています。再エネ施設設置に係る開発事業の場合、経済産業省令(通称:発電所アセス省令)第23条で環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法が具体的に決められています。発電所アセス省令第23条では、「重要な種、注目すべき生息地の分布、生息の状況、生息環境の状況」等について、最新の科学的知見を踏まえて調査するよう規定されています。</p>
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 用語について「希少種」、「希少野生生物」などがあり、統一した方がいいと思いました。「種」といわず「分類群(亜種・変種・品種含む)」とする方がいいと思います。</p>	<p>指摘を踏まえ、「希少野生生物」を「希少種」に修正。 「種」という表現は発電所アセス省令第23条(注)で使用されている表現であり、評価項目でも使用すべき表現と考えています。</p>
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 調査期間「一年間」→「期間」とするのはいかがでしょうか。植物は種によってはその年の状況で出たり出なかったりします。そういった種類が含まれるか確認しておく必要がありそうです。</p>	<p>「少なくとも」と冒頭に限定をかけていますので、その懸念はないと考えています。</p>

氏名	所属	意見	対応
前田綾子	高知県立 牧野植物園	<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> その地域において希少(絶滅危惧Ⅰ類,Ⅱ類) → <u>国あるいはその地域において希少(絶滅危惧Ⅰ類,Ⅱ類)</u></p>	<p>国(環境省)レッドリストに絶滅危惧Ⅰ類,Ⅱ類となっていて、四国3県(高知、徳島、愛媛)で絶滅危惧Ⅰ類,Ⅱ類となっていないものは、イヌワシ、オオワシ、オジロワシ程度(四国3県で既に絶滅)です。その地域で希少であるかどうかを優先して種を決める必要があると考えています。</p>
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 緑化資材の導入による外来種(国内帰化を含む)の侵入を確実に防ぐこと。 以下に修文してはどうか。 <u>緑化資材の導入や他地域からの重機等の持ち込み等による外来種(国内帰化を含む)の侵入を確実に防ぐこと。緑化資材については日本産と同名がつけられたものであっても海外産のものは使用しないこと。</u></p>	<p>指摘通り修正。</p>
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 地熱発電所の稼働後の排気ガスや排水が周囲の環境に与える影響を把握するため、事後調査による長期的なモニタリングを確実に実施すること。 以下に修文してはどうか。 <u>発電所の稼働後の排気ガスや排水施設、排水が周囲の環境に与える影響を把握するため、事後調査による長期的なモニタリングを確実に実施し、生じた影響に対して適切な対処方法を立案すること。</u></p>	<p>指摘通り修正。</p>
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 森林でないところもあるので、「③・・植生自然度8以上とされる森林・・」 → 「③・・植生自然度8以上とされる<u>植生</u>・・」に修正してはどうか。</p>	<p>指摘通り修正。</p>
		<p><3 希少ないし重要な植物群落の保護に関すること> 森林でないところもあるので、「⑦・・自然度の高い森林・・」 → 「⑦・・自然度の高い<u>植生</u>・・」に修正してはどうか。</p>	<p>指摘通り修正。</p>
		<p><4 緑の回廊の連続性に関すること> (植物では現残量や占有面積の・・・) → (植物では現残量や占有面積の・・・)</p>	<p>指摘通り修正。</p>

氏名	所属	意見	対応
前田綾子	高知県立 牧野植物 園	<p>表3に追加すべき種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イトイ ・ヤマミゾソバ ・ツルツゲ ・モミジカラムツ ・コケシノブ ・クロベ ・オオウラジロノキ ・ヒメフウロ ・オヒョウ ・クロボシソウ ・ヒナスミレ ・ヒナチドリ ・ヒトツボクロ ・カモメラン ・ホソバシロスミレ ・マルバノイチャクソウ 	<p>「イトイ」、「モミジカラムツ」は既にリストアップされていますので、それ以外を追記いたします。</p>
谷地森秀二	越知町立 横倉山自 然の森博 物館	<p>絶滅のおそれのある種（Ⅰ類、Ⅱ類）に限定するのは妥当ではない。</p> <p>緑の回廊は幅が狭く、動物の移動、採餌の場として指定した場所。絶滅のおそれのある種のみ限定せず、<u>緑の回廊に生息する動植物は全て保全すべき。</u></p>	<p>生物多様性国家戦略、法令（種の保存法）、県の条例のいずれにおいても、生物多様性の保全の観点から保護・保全を図る種は、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類）をベースに選定されているところであり、四国局評価項目で取り上げる種についても同様に、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類）を対象としたい。</p> <p>本ご意見については、保護林委員会において、他の委員も交えて議論させていただきたい。</p>
矢野真志	面河山岳 博物館	<p>チョウ類、コウチュウ類、その他に「生息状況」を追加。</p>	<p>指摘通り修正。</p>